【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成22年9月9日(2010.9.9)

【公表番号】特表2007-506998(P2007-506998A)
【公表日】平成19年3月22日(2007.3.22)
【年通号数】公開・登録公報2007-011
【出願番号】特願2006-527449(P2006-527449)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｃ　7/02　(2006.01)
Ｇ０２Ｃ　13/00　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　1/11　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｃ　7/02
Ｇ０２Ｃ　13/00
Ｇ０２Ｂ　1/10　A

【誤訳訂正書】
【提出日】平成22年7月21日(2010.7.21)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
レンズの表面を少なくとも一部被覆し、かつ摩擦および／または接触によって物理的に喪失されうる少なくとも１つの外層を含む仮保護コーティング外層と、
前記仮保護コーティング外層の前記外層に静電的に付着する剥離可能なフィルムとを含む光学レンズであって、
前記仮保護コーティング外層が、レンズのエッジング操作中、レンズと保持パッドとの充分な接着をもたらすように、レンズ表面を被覆している、光学レンズ。（ただし、前記少なくとも１つの外層が金属酸化物および／または金属水酸化物の外層で、該外層が直接接触する下層が、フッ化マグネシウムを含有する下層である場合を除く。）
【請求項２】
前記外層は、金属フッ化物およびその混合物、金属酸化物およびその混合物、金属水酸化物およびその混合物、それらの金属フッ化物、金属酸化物および金属水酸化物のうち２種類以上の物質の混合物、光学レンズ用マーキングインクならびにマーキングインクの結合剤を形成しうる樹脂から選択される樹脂からなる請求項１に記載のレンズ。
【請求項３】
前記金属フッ化物はMgF_2、LaF_3、AlF_3およびCeF_3から選択され、前記金属酸化物はＭｇＯ、ＣａＯ、TiO_2、Al_2O_3、ZrO_2およびPr_2O_3から選択され、前記金属水酸化物は$Mg(OH)_2$、$Ca(OH)_2$および$Al(OH)_3$から選択される請求項２に記載のレンズ。
【請求項４】
前記外層が金属フッ化物からなる請求項１に記載のレンズ。
【請求項５】
前記仮保護コーティング外層が無機質であり、５０ｎｍ以下の厚みを有する請求項１から４のいずれかに記載のレンズ。
【請求項６】

前記仮保護コーティング外層の前記外層が少なくとも１５ｍＪ／ｍ^{2}の表面エネルギーを有する請求項１から５のいずれかに記載のレンズ。
【請求項７】
前記仮保護コーティング外層が前記レンズの表面の少なくとも１５％を被覆する請求項１から６のいずれかに記載のレンズ。
【請求項８】
前記仮保護コーティング外層が多層コーティングである請求項１から７のいずれかに記載のレンズ。
【請求項９】
前記仮保護コーティング外層が蒸着により成膜される請求項１から８のいずれかに記載のレンズ。
【請求項１０】
前記剥離可能な静電フィルムが、少なくとも１つの可塑剤を少なくとも２０重量％含有する可塑性材料からなる柔軟なフィルムである請求項１から９のいずれかに記載のレンズ。
【請求項１１】
前記可塑性材料フィルムが少なくとも１つの可塑剤を少なくとも３０重量％含有する請求項１０に記載のレンズ。
【請求項１２】
前記可塑性材料の柔軟なフィルムがポリ塩化ビニル（ＰＶＣ）フィルムである請求項１０または１１に記載のレンズ。
【請求項１３】
前記静電フィルムが１００～２００μｍの範囲の厚みを有する請求項１から１２のいずれかに記載のレンズ。
【請求項１４】
前記仮保護コーティング外層がレンズの疎水性および／または疎油性の表面コーティング上に形成される請求項１から１３のいずれかに記載のレンズ。
【請求項１５】
前記疎水性および／または疎油性の表面コーティングが１４ｍＪ／ｍ^{2}以下の表面エネルギーを有する請求項１４に記載のレンズ。
【請求項１６】
前記疎水性および／または疎油性の表面コーティングが１０ｎｍ以下の厚みを有する請求項１４または１５に記載のレンズ。
【請求項１７】
前記疎水性および／または疎油性の表面コーティングがレンズの反射防止コーティング上に形成された請求項１４から１６のいずれかに記載のレンズ。
【請求項１８】
前記外層がMgF_2からなる請求項４に記載のレンズ。
【請求項１９】
前記仮保護コーティング外層が前記レンズの表面の少なくとも２０％を被覆する請求項７に記載のレンズ。
【請求項２０】
前記仮保護コーティング外層が前記レンズの表面の少なくとも３０％を被覆する請求項７に記載のレンズ。
【請求項２１】
前記仮保護コーティング外層が前記レンズの表面の全面を被覆する請求項７に記載のレンズ。
【請求項２２】
前記疎水性および／または疎油性の表面コーティングが１２ｍＪ／ｍ^{2}以下の表面エネルギーを有する請求項１５に記載のレンズ。

【請求項２３】
前記疎水性および／または疎油性の表面コーティングが５ｎｍ以下の厚みを有する請求項１６に記載のレンズ。
【請求項２４】
前記仮保護コーティング外層で被覆された光学レンズが、エッジング操作中、オフセットを最大で２°とする、請求項１～２３のいずれかに記載のレンズ。
【請求項２５】
－請求項１から２４のいずれかに記載の光学レンズを提供し、
－前記物理的に喪失しうる外層を露出するために前記剥離可能な静電フィルムを除去し、
－保持パッドを含むエッジングデバイス内に、前記保持パッドが物理的に喪失しうる外層に密着するように前記光学レンズを置き、
－前記光学レンズをエッジングし、
－前記仮保護コーティングを除去し、
－前記エッジングした最終的な光学レンズを回収する
工程を含む光学レンズのエッジング方法。
【請求項２６】
前記光学レンズがオフセットを最大で２°とする、請求項２５に記載のエッジング方法。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２２】
仮保護コーティングは、レンズの２面の少なくとも１面全面を覆う領域または前記レンズの保持パッドと接触することが意図される領域のみに被覆することができる。
より具体的には、一般的に、チャックと関連する保持パッドを、レンズの凸面上に戴置する。したがって、マスクなどの適切な技術を用いて、凸面全面、または、凸面の中心部のみを保護コーティングで被覆することが可能である。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３５】
上述のとおり、仮保護コーティング外層は単層または多層、特に２層にされうる。
該層はすべて無機質であることも、無機質と有機質との両方であることも可能である。そのような場合、好ましくは有機層は厚みの薄い無機層（５～２００ｎｍ）上に成膜され、より厚い厚み、典型的に０．２～１０μｍを有することができる。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５８】

【表６】

表6		
	静電膜なしで処理されたレンズ	静電膜を付けて処理されたレンズ
Waldmannランプの下での反射による視覚的な検査	仮保護層は、袋の緩衝材との摩擦で特にガラスの凸面の中央が激しく損傷している。凹面の反射は均一ではない。	仮保護層は（青い反射も）無傷である。
エッジング操作中の保持パッドの密着	保持パッドの密着性に劣る	保持パッドの密着性良好